

基本目標① すべての市民が文化芸術を鑑賞・体験できる環境をつくります

アクションプラン(例)

<p><u>重点プロジェクト①-1</u></p> <p>文化芸術活動の活性化</p>	<p>《現状と課題》 現在も文化会館や市民館のほか、各種公共施設や民間施設でも様々な取り組みはあるものの、必ずしも連携した取組とは言えない。さらに文化芸術に気軽に触れてもらうために、学校や福祉施設、民間施設等も含めて、より戦略的かつ広範囲に文化芸術活動を活性化し、市民が様々な文化芸術活動を積極的に鑑賞し、これに主体的に参加し、また創造することができる環境を整備する必要がある。 特に子ども達には小さい頃から幅広い文化芸術に触れさせることが、その感性や創造力を高めることに繋がることから、教育的意義からも鑑賞型・体験型のさらなる創出が必要となる。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 日常の身近なところに文化芸術がある環境づくりに努めていく。市民一人ひとりの文化習慣を高め、地域の文化力向上を目指すためにも、定期的かつ継続的な芸術公演や展示の提供を、多彩なアウトリーチ事業の中でも展開していく。また、自己実現の一環としての発表の場の提供だけでなく、リスペクトの対象となり得るレベルのものを企画・提供していく。</p> <p>《事業》 ●アウトリーチ事業 身近な場所で誰でも参加しやすい文化芸術の鑑賞・体験機会が生まれるよう、地域交流センターや学校、保育所、福祉・教育施設や民間施設等でアウトリーチ事業を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間含むアウトリーチ事業</li> <li>・公共空間・施設整備等における1%パブリックアートの導入</li> <li>・青少年劇場・巡回芸術劇場、子ども文化ふれあい事業</li> <li>・各種イベント等とのコラボレーション</li> </ul>
<p><u>重点プロジェクト①-2</u></p> <p>公共文化ホール等での鑑賞機会の創出</p>	<p>《現状と課題》 定期的に自主文化事業は開催しているものの、魅力ある事業展開においては十分とは言えない。より魅力のある文化事業を企画・実施し、子どもから大人までの鑑賞者数を増していくことが課題となっている。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 企画力を高める中で、市民が来館し、本物の文化芸術を体験・鑑賞する機会を提供する。また、関連施設を活用した企画等についても、施設活用の可能性を多角的に検討し、文化芸術を身近に感じられる環境づくりに努める。</p> <p>《事業》 ●文化芸術施設におけるコンスタントな事業展開 本物の文化芸術をより身近に感じるために、市民に魅力ある質の高い文化芸術事業を提供する。</p> <p>●他自治体（財団）との連携事業 近隣他市町（財団等を含む）と連携しながら、本市での芸術公演の開催等につなげる。</p> <p>●小・中学生の鑑賞事業 学校との連携や伝統文化も取り入れるなど、小・中学生に本物の文化芸術に触れる機会を提供することで、子どもの持つ無限の可能性を開く契機（動機付け）とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な芸術公演や展示会の開催</li> <li>・関連会議への参加と連携</li> <li>・(再掲) 青少年劇場・巡回芸術劇場、子ども文化ふれあい事業 ※話し合ったり表現する場を設ける必要性</li> </ul>
<p><u>重点プロジェクト①-3</u></p> <p>文化芸術の体験機会の創出</p>	<p>《現状と課題》 鑑賞を含めて多様な情報源により触発された興味・関心や意欲を次のアクションにつなげるための受け皿となる仕組みがなく、一過性で終わるといった危惧がある。本市の文化芸術の裾野を広げる意味でも、より幅広い世代の市民が文化芸術に関する活動を行ったり体験できる相談体制や機会の充実が必要である。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 市民が気軽に文化芸術に触れることができる機会を創出する。また、未来を担う子ども達が心身ともに成長し、思いやりの心や豊かな人間性を育むため、学校を通して、地域の文化や芸術を活かした体験学習の充実を図る。</p> <p>《事業》 ●文化芸術の実践の受け皿づくり 文化協会をはじめとする関係者による受け皿づくりや、様々なツールも活用した相談・助言体制を構築していく。</p> <p>●学校における体験学習の充実 ガラス体験教室（きららガラス未来館主催）や、かるた教室など本市の文化を体験できる機会を継続して実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市と文化協会等が連携した相談助言体制の構築</li> <li>・タブレットを活用した鑑賞機会の充実</li> </ul>
<p><u>重点プロジェクト①-4</u></p> <p>情報提供の充実</p>	<p>《現状と課題》 市広報やホームページ、SNS、配布物等による情報発信はされているものの、どの程度の情報伝達に繋がっているかは不明。関心が低く積極的には求めている人も含めて、より多くの住民に対しての訴求力を高め、民間も含めた「このまち」での文化芸術の鑑賞機会を多彩なツールを活用しながら、適時的確にしっかりと伝え、受け取ってもらうことが重要である。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 より効果的なメディアやツールを活用した情報発信体制を構築し、市内外のより多くの住民に対して、鑑賞機会の充実につながる全ての情報（民間実施を含む）をタイムリーに提供していく。</p> <p>《事業》 ●SNS活用を含めた情報発信体制の構築 多彩な情報伝達ツールを活用し、多様な情報発信を行う管理・運用体制を構築する。</p> <p>●市内イベント情報の提供 情報提供者との双方向となる連携体制を構築し、市内（外）での最新情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE活用 ※アカウントを提供し、双方向で情報がアップできる体制</li> <li>・文化芸術に特化したHPや文化タウン誌の検討</li> <li>・FMのさらなる活用</li> <li>・最新のイベント情報の提供(年間スケジュール)</li> <li>・空港や駅等での掲出</li> </ul>

基本目標② 文化芸術のつくり手の活動を支えます

アクションプラン(例)

重点プロジェクト②-1 文化の多様な担い手の育成支援	(1) 市民の文化芸術活動支援	
	《現状と課題》 市が主催する児童生徒書道展や、市と文化協会との共同主催で毎年開催されている市民文化祭（市民音楽祭、日本舞踊祭、邦楽大会、市民茶会、華道展、洋舞演劇祭 展覧会、川柳大会、短歌大会、俳句大会）をはじめ、公民館等での作品展示のほか、民間施設においても様々な文化芸術活動の発表機会が設けられているが、相互の連携や情報共有は決して十分ではない。	
	《プロジェクトの目的・内容》 文化協会とのさらなる連携や民間との情報共有等を通して、市民による文化芸術活動が活発となるよう、市民が主役となる文化芸術活動の発表機会の提供・支援を行う。	
	《事業》 ●市民の文化発表の場の充実 様々な個人・団体等の活動が連携し情報共有できる仕組みをつくり、単体ではなく共同で開催するなど、創意工夫することにより文化発表の場を充実させていく。	・市民文化祭の充実
	(2) 若手芸術家の活動支援	
	《現状と課題》 市内で活動する芸術家は少なく、芸術を志す市民は市外・県外へ活動拠点を移しているのが現状である一方、ガラス作家については移住し、本市のガラス文化の推進に尽力している例もある。こうした市内在住の若手芸術家を支援することが、将来、国内外で活躍する文化芸術の担い手を育成することに繋がることから、より活動意欲の上がる場の提供又は創出を行う必要がある。	
	《プロジェクトの目的・内容》 市内の芸術家等を志す人材の育成を行い、次世代の文化芸術の担い手を育成する。	
	《事業》 ●文化芸術の担い手支援の検討 まずは本市の実情を把握するとともに、他自治体の事例等を調査研究し、育成・支援の手法について検討する。	
	(3) 芸術創造活動への支援	
	《現状と課題》 他自治体では文化芸術によるまちづくり、伝統文化継承、次世代育成などの活動を支援するための活動事業補助制度を整備し運用することで、多くの団体の活動の幅を広げる支援がされているが、本市においては補助制度は未整備である。今後、より市民や民間団体等の活動を活発化させるための仕組みづくりを検討する必要がある。	
《プロジェクトの目的・内容》 市民や民間団体等の文化芸術活動をまちづくりに活かすために、市の文化芸術の振興を目的とした活動がより発展的・継続的に進めるための支援を検討する。		
《事業》 ●芸術創造活動への支援検討 他自治体の事例を調査研究し、本市の実情に沿った支援を検討する。		
重点プロジェクト②-2 マネジメント力の強化	《現状と課題》 これまでも様々な文化芸術活動が行われてきたが、個人や団体がそれぞれ単独で活動している状況が多く、相互の連携は十分とはいえない。連携をより強固にしていくには、文化芸術の受け手と担い手、担い手同士をつなぐ有能な調整役（コーディネーター）の存在が望まれる。コーディネーターには「社会のニーズを探り、文化芸術が力を発揮できる方策を考え、実践する」また「専門家と地域の人々、行政などを結び、新たな企画を通じて有形無形の価値を生み出す」といったことが求められ、本市においても各分野で活躍できるコーディネーターの養成・確保や、データベースの活用やネットワーク形成の促進、文化芸術の他分野への活用が求められている。 また、行政が主体となって文化芸術を推進することのデメリットの解決策として、財団等の法人格をもつ推進組織が主体となって企画運営することにより、芸術公演等の共同開催や中・長期プランに沿った取組が可能となることから、連携・委託先となる推進組織の検討を早期に進めていく必要がある。	
	《プロジェクトの目的・内容》 文化芸術の担い手と受け手、文化芸術と他分野など、本市の様々な文化芸術を「つなぐ」ために、コーディネーターの養成・確保やし、活用を検討する。 また、市内の芸術文化の推進組織について、その具体的な検討を進めていく。	
	《事業》 ●コーディネーターの確保と活用 市が求めるコーディネーター像を確立し、市内外の人材を活用しながら養成を行うと同時に、コーディネーターを核とした、データベース構築・活用やネットワーク形成の促進、他分野への活用を検討する。	
	●中間支援機能をもつ文化芸術推進組織の形成 既存団体の財団化や他財団への参画等も含めて、推進組織の確保に努める。	※市・文化協会(市内愛好者団体として)・推進組織(企画運営を担う指定管理者)の三者による推進体制の構築
重点プロジェクト②-3 ネットワーク形成の推進	《現状と課題》 市内の文化芸術活動家や団体が集い、情報や悩みを共有するワークショップ（サロン）等は開催されておらず、垣根を越えた分野でのネットワークの形成には至っていない。また、新たな取組みを生み出すための、ネットワークを形成するための場づくりやきっかけづくりの提供が不十分であるのが現状である。	
	《プロジェクトの目的・内容》 文化芸術活動団体は単独で活動することが多いので、サロン等の交流の場を設けるなど、団体同士のネットワーク形成を促進することにより、ジャンルを越えた連携、イベント同士のコラボレーションなど、新規事業や他分野イベントにおける活用を図りながら、新しい文化芸術活動を創出していく。	
	《事業》 ●データベースの構築と拡大 市内の文化芸術団体や施設・設備等の情報集約を進め、今後さまざまな事業に活用できるよう情報を整理する必要がある。市内の活動家、活動団体、活動内容や活用できる施設等を掘り起し、その収集に努めながら、交流の場を提供していく。	・文化芸術に関する情報の収集
	●交流の場の創設 様々な活動家や活動団体の情報共有の場を設け、新たな取組みを検討していく。	・交流サロンの開催
●他自治体（財団含む）との連携 会議等を通じて、他自治体（財団含む）との情報共有に努め、共同開催等の施設活用を進める。		

基本目標③ 文化芸術を活用したまちづくりを推進します

アクションプラン(例)

<p>重点プロジェクト③-1 文化芸術の他分野への活用</p>	<p>《現状と課題》 現在、福祉や子育て等で生じる地域の課題を文化芸術の力で解決する「文化芸術の他分野活用」が注目を浴びている。子供や高齢者、障害者など、あらゆる人が文化芸術を積極的に鑑賞できるよう、また文化芸術活動の主体となる環境等を整備するよう努め、多様で創造性に溢れた社会の実現を目指すことが求められている。 これまでの本市の取り組みとしては、地域で孤立しがちな子育て世代を支援する「ファミリーコンサート」があるが、更なる内容の進化が必要である。さらに、障がい者の文化芸術活動の推進を図っていく新たな取り組みが求められるが、それぞれの分野において、今後、連携してプロジェクトを実施していくために、文化、福祉、子育て等の分野における高度な知識を持ったコーディネーターの養成やアーティストの発掘・育成を行う必要がある。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 文化芸術が持つ力を子育て、福祉など他分野へ活用し、市民の豊かな心の醸成に貢献していく。各分野での調査・研究を実施すると共に、関係機関との連携を図りながら、プロジェクトを推進するための体制・環境を整える。</p> <p>《事業》 ●高齢者施設文化芸術ワークショップの開催 市内の高齢者を対象に、コーディネーターや福祉分野での活動に長けたアーティストの人材育成を行いながら、施設側の担当者等と協働でワークショップを開催する。</p> <p>●子育て文化芸術ワークショップの開催 自主文化事業「ファミリーコンサート」の内容拡充や文化芸術を活かした子育て支援につながるワークショップを開催し、その充実に努める。</p> <p>●障がい者を対象とした文化芸術活動の調査・研究 市内の障がい者を対象に、その障がいの程度に応じた文化芸術活動を推進するための環境整備や取り組みについて調査・研究を行う。その結果等を受け、関係機関と連携し、障がい者の文化芸術活動機会を創出する。</p>	<p>・ワークショップの開催</p> <p>・ワークショップの開催 ・0歳からのファミリーコンサート ・ファミリータイムコンサート</p>
<p>重点プロジェクト③-2 市の魅力となる文化芸術の創出</p>	<p>《現状と課題》 ガラスやかるた文化の振興については、文化芸術の持つ意義や価値を認識し、それを高めていこうというだけでなく、地域伝統文化の一つとして、他にない独自性や優位性に基づいて取組むことによって、まちの魅力をつくるといった「まちづくり」あるいは「まちのアイデンティティ」につながる部分もある。これまで「ガラス」については現代ガラス展の充実や拡充を行い、また「かるた」については元クイーンの積極的な指導もあったことから、両文化の定着について一定の成果はあるものの、市民への意識浸透も含めて、さらなる取組が求められている。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 文化芸術活動における各関係者との十分な連携をさらに深めながら、本市の魅力創出に向けた展開を図っていきます。また、そのほかにも本市の特性を活かしたイベントの取組についても検討します。</p> <p>《事業》 ●ガラス文化の振興 現代ガラス展のさらなる充実を図りながら、ブランド化等の取組も通して、市民意識の浸透に努める。</p> <p>●かるた文化の振興 学校や地域での取組を通して、かるた文化の普及のみならず、かるた人口を増やすための取組として和歌の内容を味わう取組なども進めていく。</p> <p>●独自事業の展開 ピアノマラソンをはじめとする独自の自主事業をさらに充実させながら、文化芸術の振興に努める。</p> <p>●地域文化（伝統文化）次世代継承事業 各地区に継承されている伝統文化について、その把握に努め、伝統文化体験プログラム等の伝統文化次世代継承事業も検討しながら、次世代の継承へつなげていく。</p>	<p>・現代ガラス展の開催 ・ガラス作品の巡回展示(民間企業も含めて)→スタンプラリー</p> <p>・地域交流センター等での継続的な展開 ・学校でのかるたクラブの創設やタブレットを活用した取組</p> <p>・ピアノマラソン ・アラ還コンサート ・アーティストBOX ・龍王伝説</p> <p>・地区に継承されている伝統文化(行事)の調査</p>



基本目標④ 文化芸術に関する総合的な仕組みをつくります

アクションプラン(例)

	<p>《現状と課題》 文化施設の根本的な存在意義とは「文化的なつながりを求めて人々が集まれる場所」であるが、それは単に建築物や屋内空間を指す「施設」というだけでなく、文化的な営みに携わる人材、情報、活動を包含する必要がある。そのため、文化拠点は場所であると同時に、人々の文化的な営みを有機的に生成させる、いわば「拠点」として位置づけることで、単に人々を集めるだけでなく、文化に関する専門性を備え、それを存分に発揮することが期待できる。 市民館（文化・体育ホール）も有効に活用しながらも、文化会館を文化拠点と位置づけ、単に芸術公演や展示会場としてだけでなく、普段から文化的なつながりを求める人々の交流の場（カフェ機能）、文化芸術が持つ豊かな心を育める場として、さらにギャラリー機能や情報集積の場、ネットワークの結節点としての文化空間を創り上げることが重要である。 また、日常のかつ身近に文化芸術に触れることのできる場としての常設ギャラリーについては長年の懸案事項であり、その必要性は高いものの、現状では新たに整備することは難しく、様々な手法を検討する必要がある。 なお、老朽化が著しい文化会館においては、「文化芸術の中核拠点」としての機能を十分に発揮するための長寿命化を含む早期改修が急務である。</p>	
<p>重点プロジェクト④-1 文化拠点の機能強化</p>	<p>《プロジェクトの目的・内容》 文化会館においては、本市の「文化芸術の中核拠点」として様々な機能や役割を更に高めながら、文化芸術のプラットフォームとしての位置づけを明確化すると同時に、早期改修や文化交流のための空間づくりを進めていく。</p> <p>《事業》 ●文化会館 これまで部分的な改修のみであったため、建物全体の老朽化が著しく進み、不具合が多く生じている。機能強化のための施設改修検討と並行しながら、躯体の健全化に早急に取り組む。 また、単なるハコモノとしての貸館中心から、主体的な事業展開の場としての施設管理運営を進めていく。</p> <p>●市民館 全市的には、芸術公演の場としての文化ホールと、主に展示会場としての体育ホールを有効に活用しながら、市域全体の人口重心も考慮した事業展開に取り組んでいく。</p> <p>●市民ギャラリー 市内の公共空間を活用しての展示とあわせて、常設的に活用できるギャラリー空間の確保に努め、文化の担い手の発表の場かつ市民にとって身近な鑑賞機会の場を形成していく。</p>	<p>・文化会館の早期改修</p> <p>・既存施設の活用による常設ギャラリーの確保</p>
<p>重点プロジェクト④-2 文化協会との連携</p>	<p>《現状と課題》 文化協会については、本市の文化芸術振興を担う民間団体として一定の支援は継続的に行われているが、より多様な形での支援や連携に向けた支援を進める必要がある。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 中間支援的機能をもつ推進組織の検討とあわせて、個人・団体支援を中心とした文化協会の役割の明確化と市との多様な連携を推進していく。</p> <p>《事業》 ●文化協会との連携・協力体制の構築 相互に実施する事業が、本市の文化芸術の振興により効果的な内容となるよう、連携・協力体制を強化していく。</p>	<p>・個人会員への情報提供と鑑賞機会の拡大、団体会員への支援 ・市と文化協会の連携強化</p>
<p>重点プロジェクト④-3 学校・地域との連携</p>	<p>《現状と課題》 これまでも学校と協力したアウトリーチ事業を実施しているが、さらに市内の保育所や幼稚園、小・中学校や高校、大学、地域とも連携を図り、同事業を実施していくことが求められている。互いのニーズを満たしつつ、活動を二者間の線から全体的な面へ広げることが必要であり、文化芸術に触れることで、感性や創造性、表現力を備えた、より良い市民教育や人格形成に寄与していくことが大切である。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 これまで行ったきたアウトリーチ事業をさらに各方面に広げ、様々な団体等とも連携を図り、関連性を深めながら、展開していく。</p> <p>《事業》 ●大学との協働・連携 山口東京理科大学と連携しながら、市で行う文化芸術活動に対して、協働の取り組みを行うと同時に、文化芸術活動を通して学生の創造性や表現力を高めるための取組を検討していく。</p> <p>●幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校等との連携 幼稚園、保育所、小・中学校や高校等でのアウトリーチ事業を積極的に実施していくほか、演者としての出演等により相互の連携を深めていく。</p> <p>●支える市民の育成 地域交流センターをはじめとする公共空間でのアウトリーチ事業を展開するにあたって、関係団体との連携を通して事業を支える市民（組織）の形成を図る。</p>	<p>・アウトリーチ事業の実施と協力</p> <p>・市民ボランティアやサポーターズクラブの検討</p>
<p>重点プロジェクト④-4 ビジョン検証と適正な評価</p>	<p>《現状と課題》 文化芸術自体が効果としてかなり長期的に測定しないと評価が出にくいことや、同じ芸術でもジャンルによって相当な相違が存在することなどから、その評価は難しく、必要性評価やセオリー評価といった定性的な評価となるため、通常の定量的な評価あるいは目標管理型の事務事業評価とは異なる独自の評価指標の整理が求められている。中・長期ビジョンにたった継続的な取組のためには、こうした適正な評価基準と、客観的・多角的な視点の評価者による検証が必要である。</p> <p>《プロジェクトの目的・内容》 客観的・多角的な視点からの個々のプロジェクトの検証・評価、さらに、その結果を踏まえ、必要に応じた修正を行いながら、次期ビジョンの策定につなげていく。</p> <p>《事業》 ●検証・評価委員会 文化によるまちづくり委員会による定時評価を通じた検証を通して、本市の文化芸術振興の取組の効果を検証していく。</p>	<p>・独自の評価基準の検討と、それに基づく検証</p>